

## 臨床研究に関するお知らせ

宮崎大学医学部病理学講座構造機能病態学分野では、下記の臨床研究を実施しています。皆様には本研究の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 研究課題名：弛緩出血の病理所見の解明

#### 1. 研究の概要

周産期合併症の一つである危機的産科出血は、妊産婦死亡の原因として最も多い病態です。弛緩出血は危機的産科出血をきたす病態の一つであり、分娩後に通常に比べて子宮の収縮が悪く大量出血をきたす病態と考えられていますが、子宮収縮不全の原因がわからない症例も少なくありません。生命を脅かすような弛緩出血を止めるためには子宮を摘出することが第一選択となりますが、摘出された子宮の組織を病理学的に詳細に検討した報告は今までにありません。本研究では、産科疾患により子宮摘出術を施行された患者さんを対象に、摘出された病理組織標本を用いて臨床病理学的検討を行うことで、弛緩出血の原因や病態を明らかにします。

#### 【研究責任者】

宮崎大学医学部病理学講座構造機能病態学分野 教授 山下 篤

#### 2. 目的

本研究は、危機的産科出血の多くを占める弛緩出血の子宮病理所見を詳細に検討することで、その原因や病態を明らかにすることが目的です。この研究は、弛緩出血の予防や治療に関連する新しい知見を得ることを目的とする学術研究活動として実施されます。

#### 3. 研究実施予定期間

この研究は、以下の期間において実施されます。  
研究機関の長による実施許可日から2030年3月31日まで

#### 4. 対象者

1982年1月から2025年4月に本院産婦人科に入院され、分娩後に産科疾患の適応で子宮摘出術を受けられた方が対象となります。

#### 5. 方法

対象となる方のカルテから以下の情報を利用させていただきます。また当院に保管されている摘出した子宮から作成した組織標本（パラフィンブロック）を使用し、病理学的解析を行い検討します。なおこの研究では、患者さんの個人情報や試料を取り扱いますが、下記の通り個人情報管理者・試料管理責任者を設置し、責任もって管理します。

（利用させていただくカルテ情報）

年齢、既往歴、経妊経産回数、産婦人科疾患の既往（流産、帝王切開、婦人科疾患の手術歴など）、妊娠経過中の採血結果、妊娠経過中の合併症、分娩週数、分娩様式、分娩経過、分娩時出血量、輸

作成日

2025年5月9日 第1版作成

血の有無、分娩後の血液検査所見、分娩後の経過、新生児所見（出生体重、性別、出生時アプガースコア、血液などの検査所見）

（パラフィンブロックを用いて検討する項目）

病理組織所見、特殊染色、免疫染色（血液凝固に関するマーカーなど）

【本学における試料・情報の管理責任者】

宮崎大学医学部病理学講座構造機能病態学分野 助教 阿萬 紫

## 6．費用負担

この研究を行うにあたり、対象となる方が新たに費用を負担することは一切ありません。

## 7．利益および不利益

この研究にご参加いただいた場合の利益・不利益はありません。参加を拒否された場合でも同様です。

## 8．個人情報の保護

研究にあたっては、対象となる方の個人情報を容易に特定できないように、数字や記号などに置き換えて使用いたします。

## 9．研究に関する情報開示について

ご希望があれば、研究計画および研究方法についての資料を閲覧することができます。ご希望がある場合は、下記連絡先へ遠慮無く申し出てください。ただし、個人情報保護や研究の独創性確保（あるいは、特許に関わる事象）に支障のない範囲内で情報開示を行います。

## 10．研究資金および利益相反について

この研究に関する経費は、研究責任者が所属する診療科の研究費で賄われます。

また、本研究は企業および団体等と経済的な関与がないため、申告すべき利益相反はありません。

## 11．研究成果の公表

この研究で得られた研究成果を学会や医学雑誌等において発表します。この場合でも個人を特定できる情報は一切利用しません。

## 12．参加拒否したい場合の連絡先

この研究に参加したくない（自分のデータを使ってほしくない）方は下記連絡先へ遠慮無く申し出てください。しかしながら、データ解析後、もしくは学会等で発表後は途中辞退することができない場合もあります。

## 13．疑問、質問あるいは苦情があった場合の連絡先

この研究に関して疑問、質問あるいは苦情があった場合は下記連絡先へ連絡をお願いいたします。

宮崎大学医学部病理学講座構造機能病態学分野

氏名：山下 篤

電話：0985-85-2810

FAX：0985-85-7614